

【議事録】概要

会議名	芦屋港活性化推進委員会（第1回）	会場	芦屋町役場 31 会議室			
日時	平成 29 年 8 月 29 日（火） 15:00~16:40					
件名・議題	<p>1 町長あいさつ</p> <p>2 辞令交付</p> <p>3 委員長・副委員長の選出</p> <p>4 諮問</p> <p>5 議事</p> <p>（1）芦屋港活性化推進委員会について</p> <p>（2）平成 27 年度「芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検討調査」結果説明</p> <p>（3）今後の進め方について</p>					
	会長	内田 晃	出	副会長	小島 治幸	出
		辻本 一夫	出		林 知幸	出
		松上 宏幸	出		中西 隆雄	出
		貝掛 俊之	出		河村 拓磨	出
		川上 誠一	出		重岡 裕馬	代
		國田 淳	出		信安 一宏	出
		野瀬 孝行	出		北 陽一	出
		須貝 秀樹	出		後藤 了輔	出
		牟田口 徹	出		小田 昭裕	出
		山田 寛	出		須河内 美紀	欠
合意・決定事項	<p>①推進委員会の体制、今後の進め方について共通理解</p> <p>②平成 27 年度「芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検討調査」（県実施）の内容がたたき台となる。</p> <p>③先進地視察を行うこととし、日程調整を行うことを確認。</p>					

平成 29 年度 芦屋港活性化推進委員会（第 1 回）議事録

1 町長あいさつ

地方創生のもと、芦屋町で何が出来るかと考えたときに、行政面積が 11.60 平方キロメートルという小さな行政面積であるが、様々な資源をもった町であると確信している。

かつて芦屋町の活性化のために、様々な政策を積み重ねてきたが、なかなか成就するには至らなかった。この地方創生こそラストチャンスではないかと考えている。

芦屋町は遠賀川をはさみ、東側は洞山に代表される岩場、西側は砂浜が広がっている。福岡県や近隣市町村の中でも、このような海に面しているのは芦屋町だけである。

そのような海岸線の中に芦屋港湾がある。この港湾については、産業港となっているが、平成 21 年度より港湾管理者である福岡県へ要望を開始し、国にも陳情してきた。

新しいまちづくりを行うにあたっては、この港湾を活かすことが大命題であると考えている。今までは、夏だけの芦屋であったが、1 年を通して人で賑わうまちづくりを目指さなければならない。砂浜ではビーチサッカーなどのスポーツ、それから数年前から商工会青年部で行っているファミリーフィッシングなども行っている。

海岸線を活かした賑わいのあるまちづくりについては、まだまだ話を深める必要があり、これは非常に大事な委員会となる。

議会においても、平成 28 年に芦屋港湾活性化特別委員会が設置されたところである。そして、本年第 2 回定例会において、芦屋港活性化推進委員会設置の議決をいただいた。

芦屋の海の魅力を最大限発揮して、この海岸線一体が九州北部地域のレジャーの拠点となるためにも、委員の皆様方には忌憚の無いご意見をいただきたい。

2 辞令交付

委員を代表して、辻本委員に辞令交付。

3 委員長・副委員長の選出

委員長・副委員長の選出は事務局一任となる。

委員長に内田委員、副委員長に小島委員を事務局より推薦。

満場一致。

4 諮問

町長から委員長へ諮問書の交付。

5 議 事

(1) 芦屋港活性化推進委員会について

〔事務局〕

○説明資料に基づき、事務局より説明を行う。

〔委 員〕

○芦屋港活性化推進本部はどういった構成になるのか。

⇒本部長を町長として、関係部署の課長職により構成された行政内部の組織である。(事務局)

(2) 平成 27 年度「芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検討調査」結果説明について

〔事務局〕

○説明資料に基づき、北九州県土整備事務所より説明を行う。

〔委 員〕

○暫定案と将来案が提示されているが、あくまで将来案を目指していくべきと考えているが、どのように考えているか。

⇒目指すべきものはあくまで将来案と考えていただいで結構。(事務局)

〔委 員〕

○資料において、概略設計を行い、概算事業費を算定したとあるが、概算費用はどのくらいの事業規模になるのか。

⇒これからの検討により整備内容も固まってくるので、費用についても大きく変わってくると思う。(県土整備事務所)

〔委 員〕

○暫定案については何年先を想定しているか。

⇒具体的な年度はまだ固まっていない。出来るものから順次着手していきたいと考えている。(事務局)

〔委 員〕

○将来案を目指すということまでは決めていないのではないかと。将来案が暫定案よりいいものなのか比べていない。案は出しているが、もう少し詳しく検討するべき。

⇒27年度検討調査の結果を踏まえ、課題を整理しながら、今後は本委員会において基本計画をまとめるもの。施設の規模等、マーケティング調査を行いながら、整備内容を検討していきたい。(事務局)

〔委員長〕

○今ご指摘いただいたとおり、27年度に町民アンケートやWEBアンケート等により、検討結果がでていいる。これは、あくまでたたき台であり、本委員会の中で、今の時代のニーズにあっているか、より詳細で専門的なマーケティング調査をもとにしながら、さらに検討していき、より良い案を出していただきたい。ただし、ベースとしては、これがたたき台になるのは間違いないと考える。

〔委員〕

○本委員会が対象とするエリアはどこまでを指しているのか。
⇒芦屋港パンフレットに示された、砂浜以外のエリアについて検討を進めていく。ただし、港湾だけを見るのではなく、周辺施設との関係性など広い視点で見ながら、検討していただきたい。(事務局)
⇒海面も含めて対象エリアであることを補足する。(事務局)

〔委員長〕

○対象範囲は説明があったとおりだが、将来案にもあるように、例えば芦屋釜の里部分については歴史・文化ゾーンとして位置付けがある。広い視点で見えていただきながら、町全体として対象エリアについて検討していただくことになる。完全に無視するわけではなく、周辺土地利用を踏まえながら、何を整備するのが相応しいかを考えていただきたい。

〔委員〕

○現在、活用している物流ゾーンについては、どうするのか。
⇒今のところ、どうするかは決定していない。暫定案では、取り除かずに物流機能を残している。今後、利用事業者の意見も聞きながら検討していくこととなる。(事務局)

〔委員〕

○本委員会の任期が2年間となっているが、2年間の間に計画自体が決定されて進んでいくのか。それとも2年間で議論がなされ後に進んでいくのか。
⇒30年度までを目標に基本構想を固める予定。(事務局)

〔委員〕

○暫定案、将来案は、今利用している事業者と話し合っって作成された案になるのか。
⇒27年度検討調査の際に、当時利用されている事業者にヒアリングを行った。その結果、明確な答えはもらっていないが、急には厳しいという回答をいただいている。それを受けたうえで、暫定案は物流機能を残している。(県土整備事務所)

〔委員〕

○27年度検討調査では、施設の整備、管理運営手法について、PPP・PFIや指定管理、DBO方式が提案されている。このような手法を導入するのであれば、私たちに分かるよう、説明を十分にしていきたい。
⇒27年度検討調査における課題に基づいて、管理・運営方法における調査検討の際には、十分に説明をしていく。(事務局)

〔委員〕

- イメージパース図を機軸に検討を進めていくとのことだが、この部分は県、この部分は町といった線引きが必要であると考えるが、芦屋町としての考え方を伺いたい。
- ⇒具体的な線引きについては、県と十分協議をしながら進めていく。(事務局)

(3) 今後の進め方について

〔事務局〕

- 説明資料に基づき、事務局より説明を行う。

〔委員〕

- 直売所動向調査で他の事例を調査するとのことであるが、芦屋として漁獲高がどの程度か、どのような種類の魚が獲れるのか、また農業では何が収穫できるのか。そのような特徴をつかまないと、どこでも同じようなものになるので、そういったデータも入れていただきたい。
 - リピーターがメインになる。例えば道の駅宗像や汐入の里などのリピート率も一緒にデータとして出していきたい。
 - 商圈分析について、半分は海に面している。北九州市から宗像市くらいのエリアを商圈と見ると推測するが、それら近隣市町村の人口等のデータも出していきたい。
- ⇒対応する。(事務局)

〔委員〕

- 説明を聞いた限りでは、暫定案にしろ将来案にしろ、27年度検討調査では、係留施設の規模等については、まだはっきりと決まっていないうし、分析が行われているわけではない。遠賀川の支流に不法係留しているボートのオーナーが、係留施設を整備すれば本当に来てくれるのか、係留者が増えるのか。港に関しては、この点の調査も十分に言い、把握していただきたい。
- ⇒整備しても全く活用されない施設では意味がないので、可能なかぎり所有者等の把握に努め、状況調査を行いたい。(事務局)

〔委員長〕

- どのような機能のニーズがあるのかを把握するため住民ワークショップを検討していると思うが、事業者側のニーズもあると思う。施設を整備したときに出店者側への聞き取りは行わないのか。他と違うものを作らないと来てくれない。どうしたら差別化できるかを把握することも大事な視点である。そのあたりの調査もお願いしたい。

〔委員〕

- 一番大切なのは、参画する地元住民の推進力がどのくらいあるかだと思う。どれだけいい施設を整備しても、そこを運営していくところが駄目だと意味がない。住民ワークショップは、各施設をどうしていきたいかという住民のエネルギーを溜める場となるので、是非そのような視点をもって検討していただきたい。

6 その他

(1) 先進地視察について

〔事務局〕

- 3回目委員会では、参考となる港の視察を考えている。
- 「うみんぐ大島」、「うみてらす豊前」を候補として考えている。
- 後日日程を調整し、委員が一番多く集まる日で設定させていただく。

〔委員〕

- 視察は平日に行うのか。
- ⇒ 平日で実施する。(事務局)